

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2010年1月1日から2024年8月31日の間に、 胃底腺型腫瘍のために虎の門病院消化器内科に入院・通院し、 内視鏡的粘膜下層剥離術 を受けられた20歳以上の方

【研究課題名】

胃底腺型腫瘍の粘膜下層浸潤を予測する内視鏡所見の検討

【研究の目的・背景】

目的》

胃底腺型腫瘍の粘膜下層浸潤を予測する内視鏡所見を明らかにすることです。

《研究に至る背景》

胃底腺型胃癌は2010年に報告された新しい概念の胃癌です。悪性度が低いことがわかってきたため、粘膜内病変を良性腫瘍である腺腫、粘膜下層浸潤病変を癌として取り扱われるようになりつつあります。胃底腺型腫瘍の特徴的な内視鏡所見は報告されていますが、粘膜下層浸潤を示唆する内視鏡所見に関してはまだわかりません。内視鏡所見から粘膜下層浸潤を予測できれば、経過観察を含め適切な治療を選択することができる。今回、胃底腺型腫瘍の粘膜下層浸潤を予測する内視鏡所見を明らかにすることで、今後の胃底腺型腫瘍の診療に貢献することが期待できます。

【研究期間】

2024年10月18日 ～ 2026年12月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：診療録、内視鏡記録、検査データ

【研究代表者】

該当なし

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：消化器内科 ・ 布袋屋 修

研究機関の長：院長 門脇 孝

【利用する者の範囲】

該当なし

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身またはご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身またはご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、 2025年3月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 早坂 淳之介

電話 03-3588-1111(代表)